



林 声

2024

1 月号



写真右上は高梁普及指導区が所有しているドローン(Autel Robotics社製 EVO II Pro V2)です。当普及指導区では、機会あるごとに慣熟訓練を兼ねた空撮を行い、現地調査の省力化等を図っています。なお、目視外飛行の承認を受けており、さらに幅広い活用を目指しています。写真左下は森林ゾーニング支援ツール「もりぞん」による高梁市の林業経営適地を判定したゾーニング図です。(詳細はP 3に記載)

目 次

新年のごあいさつ	2	林産物市況	11
スマート林業・おかやま ～高梁地域での取り組み～	3	森林・林業施設の紹介 (久米南町庁舎等複合施設)	14
生き活き！林務の現場(玉野市農林水産課)	4		
普及指導区の情報(東備普及指導区)	5		
森林研究所研究成果発表会の開催	6		
ニューフェイスです！(真庭森林組合)	7		
再造林推進のためのシカ被害対策	8		
研究だより (早生樹種の選抜・育成を目指して)	9		
技能講習等情報	10		
林道メニュー増えてます！	11		

【ほっけ～木になる情報】

Q. おかやま森づくり
県民税ってなに？
(答は13ページ)



新年のごあいさつ

岡山県林業
改良普及協会 会長

小野 泰弘



新年あけましておめでとございます。会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、当会の運営につきましては、平素から格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年には、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症に移行し、様々な交流やイベントが再開するなど、各地で活気やにぎわいが戻ってきたように感じます。会員の皆様も、少しずつコロナ禍以前の暮らしに戻ることが出来た一年だったのではないのでしょうか。

さて、近年の森林・林業を巡る状況においては、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎えた

中、林業・木材産業を持続的に成長させていくため、国では、適切な伐採や再造林等による森林資源の適正な管理、新技術の活用等による生産性や安全性の抜本的な向上、国産材製品の競争力強化などが推進されており、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」を実現していくことで、2050年カーボンニュートラルに寄与することとされています。

こうした中、県内の市町村では、森林経営管理制度の推進により、手つかずとなつて人工林の集積や間伐に取り組まれており、森林整備のさらなる加速化が期待されるるところです。

県においても、制度の推進に向け、市町村との連携推進会議の開催など総合的な支援に取り組まれるとともに、「21おかやま森林・林業ビジョン」に基づき、経営管理に着眼した森林の区分による計画的な伐採や少花粉スギ・ヒノキへの植替え、担い手の確保・育成、県産材の利用促進など、「伐って・使って・植えて・育てる」という林業のサイクルを安定的に循環させるための施策を進められているところとす。

また、「おかやま森づくり県民税」については、森林の保全に関

する施策の一層の推進を図る必要があることから、令和5年11月県議会定例会において「森林の保全に係る県民税の特例に関する条例の一部を改正する条例」が可決・成立され、課税期間が5年間延長されることとなりました。

こうした、国・県・市町村の施策が円滑に実施されるよう、当会といたしまして、引き続き、機関誌「林声」の発行や林研グループの活動支援を行い、会員間での林業情報の共有を通して、地域の森林・林業関係者のネットワークづくりに貢献していくとともに、森林・林業の大切さをより広くPRしていく所存です。

なお、本年5月には、第74回全国植樹祭が岡山市で、第52回全国林業後継者大会が津山市で開催されることとなっております。林業関係者にとって有意義な大会となるよう、当会においても支援して参りますので、会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、会員の皆様にとりまして、新しい年が希望に満ち、実りの多い年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

本年もお引き立ての程、宜しくお願い申し上げます



JForest 岡山県森林組合連合会

迎春

皆伐・再造林促進支援事業のご案内

再造林・下刈り経費の一部を助成しています。

◎再造林：最大 12 万円/ha（ドローン活用の場合 15 万円/ha）

◎下刈り：7 万円/ha・年（最長 5 年間）

お問い合わせは当会各支所または最寄りの森林組合まで！
（※連絡先等は当会 HP に掲載しております）



林業資材
ドローン運搬サービス

スマート林業・おかやま
 ～高梁地域での取り組み～
【高梁普及指導区】

一 はじめに

本県の人工林資源は、若齢級が極端に少ないという歪な年齢構成であることから、将来にわたって県産材を安定的に供給するためには、その偏りを改善することが早急な課題となっております。

また、近年の県内の林業就業者はほぼ横ばいですが、再造林の担い手となる育林従事者は減少傾向にあります。

一方、ICTなどの新技術の開発が著しく進展している今日、森林・林業分野においても、これら技術を積極的に活用し、森林管理や林業生産活動の効率化を図ることが求められています。

こうした中、高梁普及指導区においても、少しずつではあります「スマート林業」への取り組みを進めておりますので、紹介させていただきます。

二 現在の取り組み状況

①ドローン(UAV)

昨年、当普及指導区にドローンが配備されて以降、慣熟訓練を兼ねた空撮を積極的に行っています。ドローンを活用すれば、調査において森林内をくまなく歩きまわらずとも、鳥瞰的に様々な角度から撮影した鮮明な画像により、省力で区域全体の現況を把握することが可能なため、伐採跡地の天然更新状況の調査や、下刈り前の繁茂状況調査に活用しています。

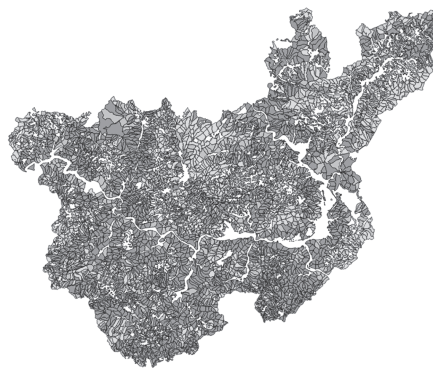


ドローンを活用した再造林推進WG現地調査

②森林ゾーニング支援ツール「もりぞん」

当普及指導区では、月に1回程度、市役所・森林組合・森林課職員が参集して、再造林推進のほか、森林経営管理制度、造林事業や森

林開発等について情報を共有し、高梁地域の森林・林業施策のありかた等について協議を行っています。この中で、今後の再造林推進の一つの材料として、「もりぞん」による林業経営適地を判定したゾーニング図を活用しています。



「もりぞん」で作成したゾーニング図

その他、林地台帳の整備に活用するため、G空間情報センターから入手した法務省備付地図データから変換したシェープファイルや、伐採届出制度の指導等に活用するために森林変化情報サービスの判読結果シェープファイルを高梁市に提供しています。

また、びほく森林組合では、GNS S測量機を令和3年度に導入し、これに森林計画図のデータを取り込んで造林補助事業申請時の

周囲測量へ活用することを目指しています。



GNS S測量機を活用した周囲測量

三 今後の取り組み

当普及指導区管内のスマート林業への取り組みは、まだまだ始まったばかりですが、地域の要請に沿った新しい技術を普及するため、今後とも新技術の情に注視し、特に有効と思われる技術については関係者へ積極的に情報提供するなど、森林管理の基礎となる資源情報の充実や最新技術を活用した「スマート林業」の推進を通じて、高梁地域の様々な森林・林業の課題に対応していきたいと考えています。

(高梁普及指導区 木村 旨則)



一 はじめに

玉野市は、岡山県の南部に位置し、降水量の少ない瀬戸内海気候に加え、土壌は深層風化した花崗岩等の脆弱な地質からできていることから樹木の成長も遅く林業は発展してきませんでした。一方で、はげ山復旧としての歴史は古く、復旧のため国や県も一体となって植栽による治山工事を行ってきました。

はげ山から復旧した後も大規模な山火事がたびたび発生しており、なかなか山に森林が形成されませんでした。最近では、林声2021年1月号でも紹介しましたが、ようやく豊かな森林が見られるようになりました。

二 玉野市の人工林の現況

令和2年度に市内にあるヒノキの人工林について、現況を把握するため、おかやまの森整備公社に委託をして航空写真による樹種判定を実施しました。(調査箇所176区画55.25ha) その結果、

約63%は広葉樹化等によりヒノキ林は認められませんでした。

また、現地確認されたヒノキ林の区域も中層部分に広葉樹が侵入しており、ヒノキ林の立木密度が低くなっていました。このため、自然のまま針広混交の育成複層林化を進め、山地災害防止機能や土壌保全機能の維持増進につなげることをしました。



針広混交林が進んだヒノキ林

三 イノシシの被害対策

市内の山林が健全な森林に覆われることで森林の公益的機能が高まりました。しかし、森林内ではイノシシの数が増加し、農作物の被害や市街地にも出没が見られるようになり、人的被害が懸念され

るようになりました。このため、平成26年度には農林水産課にイノシシ対策係を設置し、専門の職員を配置しました。また、人とイノシシのすみわけ対策として、町内会が設置する防護柵の材料費を市が負担することとしています。現在では、市内において延べ161.5kmを設置しています。



町内会で設置した防護柵

四 森林環境譲与税の用途

市内にある林道は、森林の管理だけでなく、山火事の延焼を防ぐ防火管理道としての役割を果たしています。しかし、その林道も手入れ不足で周辺の樹木や雑草が生い茂っていました。このため、森林環境譲与税を活用し、林道周辺

の樹木の伐採や草刈などの手入れを行うこととしました。これにより、山火事発生時に飛び火からの延焼を押さえることや消防車の進入を確保できるようになりました。



手入れされた林道波知線

五 おわりに

今年の4月からは森林環境譲与税の財源が森林環境税となり、その用途については住民からの注目も高まることが想定されます。このため岡山普及指導区としては、玉野市と協力しながら災害防止や野生鳥獣被害抑制のための森林整備を推進するなど、地域の実情に合わせた普及活動を進めていきます。

(岡山普及指導区 上野 和俊)

東備普及指導区の情報
「ドローン」及び「もりぞん」を活用した市町への支援について

一 はじめに

東備普及指導区は、県の南東部に位置する、備前市、赤磐市、和気町を区域としています。

当指導区の森林の特徴として、林野率は73.5%と県平均である68.1%を超える一方で、人工林率は13.3%しかありません。決して林業が活発とは言えない地域ではありますが、こうした地域での取組みへの支援について紹介します。

二 ドローンの活用

令和4年度に、森林資源の把握に活用することを目的として、各県民局・地域事務所にてドローンが配備されました。

このドローンを活用し、赤磐市から依頼のあったマツの生育調査を、市職員・県民局職員と合同で11月に行いました。

調査を行った赤磐市平山地区は、県内でも数少ない松くい虫防除のための空中散布を行っている地区です。



ドローンによるマツの生育調査

ドローンで撮影した写真をオルソ処理（中心投影写真を正射投影写真へ補正する）し、マツの生育状況を確認しました。

地上からの探査では、山の中を歩き回り時間が掛かる上に全貌が把握しづらいますが、ドローン撮影では、短時間で広範囲の確認が可能になります。業務の効率化に加え、森林資源の把握にとっても適していることが実感できました。

三 「もりぞん」を活用したゾーニング

当指導区では、7月に引き続き11月に備前市、赤磐市、和気町、美作東備森林組合支所をメンバーとした、再造林WGを実施しました。

特に、備前市吉永町、赤磐市吉井町、和気町佐伯地区は、人工林率が高く、再造林について対策を講じていかなければなりません。今回のWGでは、伐採造林届出制度の適正な運用について各市町の管理状況を共有するとともに、市町村森林整備計画におけるゾーニング支援ツール「もりぞん」の活用について説明を行いました。

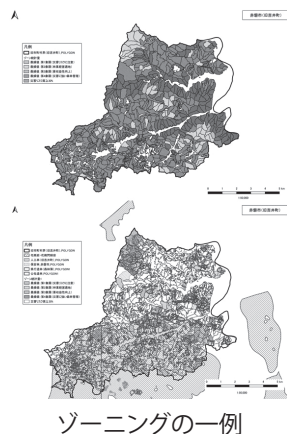


再造林WGの様子

「もりぞん」は、再造林の実施を効果的に推進するために、ゾーニングや造林適地の選定の一助として開発されたツールです。

「もりぞん」では、収益性（地位・集材作業効率率・地利）と災害リスク（地形の複雑さ・傾斜）の2軸から、しきい値を設定して計

算し、4象限に区分して色分けすることで、データに基づくゾーニングを簡易に行うことができます。さらに、ゾーニング図に森林クワッドから抽出した森林簿の人工林データ等を重ね合わせることで、地域に合った林業経営適地を絞り込むことも可能となります。



ゾーニングの一例

今回は、当指導区で作成した旧市町毎のゾーニング図を配布し、今後の「もりぞん」活用へのイメージを持ってもらいました。

四 おわりに

今回、ドローンの活用が森林調査へ大きく貢献することを改めて認識したので、今後も積極的に活用していきたいと思えます。

また、今年度は市町村森林整備計画の変更があるため、新たなツール「もりぞん」の活用を通して、市町への支援を続けていきたいと思えます。

（東備普及指導区 佐藤 裕子）

**令和5年度 森林研究所
研究成果発表会の開催**

岡山県農林水産総合センター森林研究所では、これまで取り組んできた研究の成果を森林・林業・木材産業の関係者をはじめ、多くの県民の皆様方に分かりやすく紹介し、理解と関心を深めてもらうため、次のおり研究成果発表会を開催します。

一 開催日時

令和6年2月14日(水)
13時から16時まで

二 場所

建部町文化センター小ホール
(岡山市北区建部町建部上)

三 内容

◇研究成果発表

- ①ドローン画像による立木密度と林分材積の推定
(牧本卓史専門研究員)
- ②少花粉スギ・ヒノキコンテナ苗の育苗と取組み
(藤原直哉特別研究員)

◇講演

岡山県における木材保存分野の研究について (金田利之副所長)

◇ポスター発表・実験機器展示
森林研究所で取り組んでいる試験研究課題の内容について、パネル・実験機器等の説明をします。

四 参加申し込み

参加を希望される方は、令和6年2月7日(水)までに、左のQRコードによる申込みを行うか、森林研究所まで、電話、FAX、メールにてご連絡願います。(詳細は森林研究所ホームページ参照)
なお、申込みの際には氏名・電話番号をお知らせください。

【申込先】

岡山県農林水産総合センター
森林研究所
(勝田郡勝央町植月中)

TEL 0868-38-3153
FAX 0868-38-3152
メール ringyo@pref.okayama.lg.jp
ホームページ
https://www.pref.okayama.jp/soshiki/209



令和5年度研究成果発表会 発表要旨

題名 及び 発表要旨	
「ドローン画像による立木密度と林分材積の推定」	(林業研究室 専門研究員 牧本卓史)
ICT機器を活用した省力的な森林調査の選択肢のひとつとして、ドローンによる空撮画像から簡易に立木密度や林分材積を推定する手法について検討し、航空レーザー計測成果や地上レーザー計測機器を用いた現地調査との比較を行ったので、その概要を報告します。	
「少花粉スギ・ヒノキコンテナ苗の育苗と取組み」	(林業研究室 特別研究員 藤原直哉)
近年、主流となっているコンテナ苗の育苗技術について、不明な点が多い施肥や光条件、また病虫害への対策に関する研究成果を報告し、併せて、少花粉スギトライアル生産事業における各生産者の取組みを紹介します。	
「岡山県における木材保存分野の研究について」	(副所長 兼 木材加工研究室長 金田利之)
これまで取り組んできた土木用木製構造物の耐久性調査や木質防火材料の開発などの木材保存分野に関する試験研究について、その概要と研究成果を紹介し、今後の木材保存分野における研究について展望します。	

「ニューフェイスです！」

真庭森林組合

黒田 侑希さん (20歳)

今回は、真庭森林組合の黒田侑希さんをご紹介します。黒田さんは令和5年4月に本所事業課に技術員補として採用され、将来が期待されている若手職員です。



真庭森林組合事務所前の黒田さん

一 経歴

黒田さんは、真庭市（旧勝山町）のご出身で、市内の高校を卒業後、兵庫県立森林大学校に進学し、林業に関する知識・技術を勉強され、卒業後インターシッ

でお世話になった真庭森林組合に就職されました。

林業に興味を持ったきっかけは、自宅の周りは自然が豊富で小さい頃から山で遊んでいたことや小学生の時に林業教室で稲荷山のヒノキ林や木材市場を見学したことで興味を持たれたそうです。

高校では、農業について学ばれたそうですが、実習の先生との会話により次第に林業の現場に興味を持ち、高校のインターシッップを活用し真庭森林組合で木の伐採や測量を体験することがきっかけで、兵庫県立森林大学校に進学されたそうです。



事務所でパソコンに向かう黒田さん

二 仕事の内容

事業課では、購買品の管理と森

林保険、直営班の現場施工管理等を任されており、パソコンでのデータ入力や伝票の整理、境界の確認やコンパスを用いての測量及び図面作成を担当しておられます。

三 仕事への想い

やりがいを感じることを何うと「全てが初めてなので覚えることも多く大変なこともあるが、好きな自然の中で働けることにやりがいを感じています」と話されました。



現場で調査を行う黒田さん

四 今後の抱負

今後の抱負を伺うと「まずは、与えられた仕事を一人前に出来るようになりたい」「わなの免許を持

っているので銃の免許も取って獣害を減らしたい。」「樹木医補の資格を持っているのでいずれは樹木医の資格を取りたい。」とのことでした。

取材の最後に趣味について伺うと、「大学時代友人の影響で昔のオーディオ機器での音楽鑑賞と電動工具で棚等を作る木工」と答えられました。

五 上司からひと言

事業課の植田課長に伺うと「わからないことがたくさんあると思うので、まず環境に慣れてからたくさんの知り合いを作り、失敗を恐れずに成長し地元から信頼される人になってほしい。貴重な人材であるため、将来は森林組合を担う人材となるように頑張ってください。」と笑顔で答えられました。

六 おわりに

お話を伺っていると、黒田さんの誠実な人柄により、上司とも良好な関係が築かれていると感じました。

黒田さんの益々のご活躍を期待するとともに、当普及指導区としても、支援していきたいと考えています。

(林業普及指導員 神本 英夫)

再造林推進のためのシカ被害対策



一 はじめに

近年、シカの生息分布域の拡大に伴い、県北部において森林の更新が困難となるような植栽木の被害が発生しています。被害を防ぐためには獣害防護柵（以下「防護柵」という。）の設置に加え、適切な点検・修繕などの対策が必要です。また、被害が甚大な場合は補植が必要となるため、森林所有者の費用負担が増大し、このことが経営意欲の低下の一因となっています。

このような状況の中、「伐つて・使つて・植えて・育てる」という林業のサイクルを循環させ、伐採後の再造林と造林木の着実な成長を図るためには、効果的な獣害対策が必要です。

二 課題等

○防護柵の破損

県北部の再造林地には、傾斜が30度を超えるような急傾斜地や、日本海側からの湿った雪が降り積もる場所があり、そうした再造林地では、自然気象による防護柵の破損が多くみられます。



雪圧による支柱の破損



倒木によるネットの破損

（国研）森林研究・整備機構森林整備センター発行の「シカ害防除マニュアル」によると、経験値として積雪深が150cmを超えている場合には、積雪後の雪の動き等により、防護柵が破壊・破損することが多く、防護柵による防除が難しいとされています。

また、県森林研究所の調査によると、防護柵の破損は、台風や雪などの自然気象等の要因に加え、防護柵の設置時における瑕疵（か



流水路上に設置



刈払機等による切断

し）や下刈り時に発生したと思われる刃物による切断痕など、人為的な要因によるものが多く確認されています。

○再造林地周辺での捕獲の現状

シカの生息密度が高く、シカによる被害が甚大な地域は、防護柵等の対策を講じたとしても確実な更新が困難となる場合もあります。野生鳥獣の被害対策では、防護と捕獲とを総合的に推進することが重要とされていますが、人里離れた再造林地では、農地と比べ、わなの設置や見回り、捕獲後の処理等に多くの労力を要することから、再造林地周辺での捕獲がなかなか進んでいないのが実情です。

三 総合的な対策の推進

○地域の関係者による被害防止対策の検討

効果的な被害防止対策を進めるためには、地域の関係者による合意形成が必要です。とりわけ、捕獲に関しては、市町村をはじめ、森林組合等の林業事業者及び捕獲の担い手である猟友会等が連携し、再造林地周辺での捕獲方法や役割分担の検討など、実施体制を整備することが重要です。

○シカ被害に強い再造林の検討

県内の伐採・再造林地では、全

ての立木を伐採して植栽する事例が多いと思います。

前述の「シカ害防除マニュアル」では、「植栽できるところに植栽する」という考え方から、「防護柵の設置や設置後の維持管理を念頭に植栽区域を決める」という考え方に切り替えることも必要とされています。今後、一貫作業の推進や伐採事業者と造林事業者との連携により、岩石地・谷部等を避けた伐採や、防護柵の支柱代わりとする立木の保残等の対策を講じた再造林地の造成が期待されます。

また、シカ被害の効果的な防護には費用がかかるため、再造林自体の低コスト化が重要となってきます。再造林の低コスト化のためには、①伐採と造林の一貫作業の推進、②植栽本数の低減（2,000本以下/ha）、③下刈り回数の縮減などを図る必要があります。県では、こうした施策を推進しております。

四 おわりに

現在、全国では様々なシカ被害低減のための取組が実施されています。県では、市町村及び関係団体と連携し、総合的な対策が推進されるよう検討を進めてまいります。（治山課 造林班）

研究
だより

早生樹種の選抜・育成を目指して
— ユリノキについて —



一 はじめに

早生樹は、下刈り等の育林コストの削減や短伐期での収穫が見込まれることから、多様な森林を造成する選択枝の一つとして期待されます。このため、当森林研究所では、令和3年度から、本県の造林に適する早生樹種等の選抜を目的とした試験研究に取り組んでいます。今回は、対象樹種の一つであるユリノキについて、伐倒調査及び種子の発芽試験を行ったので紹介します。

二 ユリノキの概要

ユリノキは、モクレン科に属する落葉高木です。北米原産の樹木で、日本へは明治初期に移入されました。日本の気候に適し、幹が通直で成長が早いことから、公園樹や街路樹として広く植栽されています。林地での植栽事例は少ないものの、岩手県滝沢市内の造林地（林齢43年ほか）において、広葉樹林分収穫表の地位一等級よりも顕著に高い成長を示しており、積雪地・寒冷地でも成長が期待できることから、東北地方を中心に研

究が行われています。

三 立木の伐倒調査

当研究所内に生育する個体（図1）を伐倒し、樹幹解析を行ったところ、樹齢23年生で樹高17m、胸高直径33cm及び枝条部を含む単木材積約0.6立方mに達するなど、成長が非常に早いことが分かり、早生樹として有望な樹種であることが示唆されました。



図1 伐倒前の立木

四 種子の特性

ユリノキの果実は果皮と種子が一体化した瘦果（そうか）で、これが重なって球果状の集合果を形成します（図2）。文献により差異がありますが、発芽率は数割程度と総じて低く、育苗における課題と言えます。これは虫媒花の本樹

種にとって、生育地に花粉を媒介する昆虫等がないことや、種子と一体化している翼の分離が難しく、風や液体による充実種子・未充実種子の選別が困難であることが影響していると考えられます。

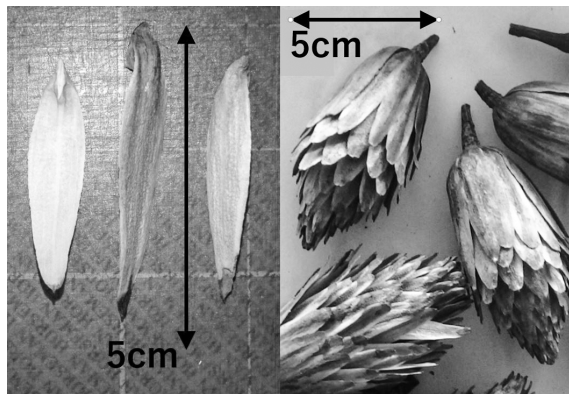


図2 瘦果(左)及び集合果(右)

五 採種時期と種子の保存方法

令和3年度以降、当研究所内にシードトラップを設置し、落下した種子（瘦果）の量における月変動を調査しました。この結果、10月頃から落下しはじめ、11月にピークを迎えた後、12月には終息するという、大まかな傾向がみられました（図3）。さらに、各月に採取した種子を、乾燥状態でそのまま密封した場合（乾燥保存）と、

採取後に砂等を用いて保湿した状態で密封した場合（保湿保存）で、それぞれ冷蔵しました。そして、3月にトレイへ播種した際の発芽率を、採種月間及び保存条件間で比較したところ、発芽率は採取月・保存条件の双方の影響を受けることが分かりました（図3）。トラップ等による採種の場合は、収量及び発芽率がピークとなる11月に採種を行い、保湿貯蔵することで、採種の効率性及び発芽率を高めることができると考えます。

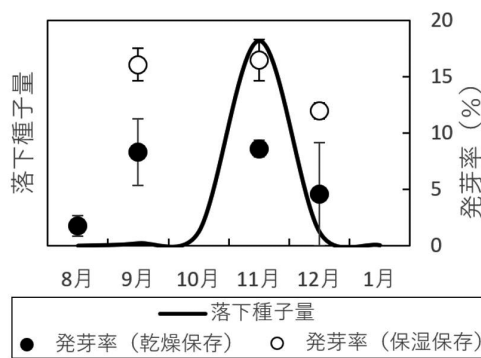


図3 落下種子量の模式図と発芽率

六 おわりに

今後も、早生樹等を対象とした育苗方法の検討や環境適応性・成長量の評価を行い、本県の造林に適した樹種を見出したいです。

（林業研究室 研究員 新原 一海）

技能講習会の開催（2月～3月）

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名 称	会場	日 程	申込・問合せ先
伐木（特別教育）	岡山	2月14～16日（受付終了）	林業・木材製造業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL（0868）28-9518  林炎防岡山県支部HP
※15名以上の受講者がある場合は、「伐木特別教育」又は「刈払機安全衛生教育」の特別開催（出張）を実施することができます。			
小型移動式クレーン運転	岡山	3月14～15日	一般社団法人 岡山県労働基準協会 TEL（086）225-3571
玉掛け	岡山	2月1～2日 3月2～3日、7～8日	
	笠岡	2月19～20日	
	津山	2月28～29日	
フォークリフト運転	岡山	2月7日,10日 3月1日	
	笠岡	2月15日	

「もしも」に備えて・・・森林保険があります！

FOREST INSURANCE



森林保険

加入できる森林は？ 人の手が加わった森林
 加入期間は？ 1年単位で何年でも！
 保険金ができるのは？

火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。

岡山県では過去5年間で約3千4百万円の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース（1haあたり）

樹 種…ヒノキ 契約時林齢…1年
 保険期間…5年 保険金額…最大188万円
 一括払いだと **27,444円（5年間計）**

樹 種…ヒノキ 契約時林齢…26年
 保険期間…5年 保険金額…最大299万円
 一括払いだと **43,325円（5年間計）**

1ヶ月あたり
約460円

わずかおむすび
4個分

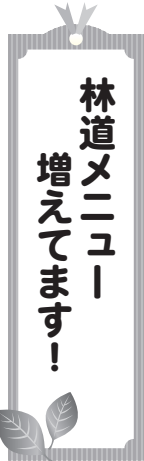
1ヶ月あたり
約720円

わずかラーメン
1杯分

○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。

○条件によって契約金額が変わってきます。

○お申し込み、お問い合わせはお近くの森林組合まで。



林道は、持続可能な林業を営む上で必要不可欠な生産基盤であるとともに、集落間の連絡道として山村地域の生活環境の改善や地域の振興にも寄与しています。
また、災害時には避難のための迂回路としても利用されるなど、林道の役割も多様化しているところです。

一 既設林道の強靱化

近年、山地災害が頻発化・激甚化する中、災害に強い林道としていくことも一層重要になってきています。

このため、県では既設林道への法面保護工の実施をはじめ、排水施設の見直し、待避所や交通安全施設の設置、更には縦断勾配の緩和や拡幅等の改築、アスファルト舗装など、きめ細かな事業メニューを活用しながら、強靱かつ安全に通行できる林道の整備を推進しています。

二 新たな林道の整備

森林所有者の皆様が伐採・搬出作業の低コスト化を検討される中

で、林内路網の骨格となる林道の新設や改良を必要とされる場合には、市町村担当課、もしくはは県民局森林整備課へ御相談ください。



木材搬出の利用状況



法面保護工の改良

(治山課 整備班)

林 産 物 市 況

●木 材 (12月7日)

・出荷量 約1,300m³



単位：千円/m³

樹種	長さ	径級	直材	小曲り	概 況
杉	3 m	14~16	10	~	杉概況 【3m】 柱 材 横這い 中目材 横這い 【4m】 中目材 横這い 元 木 横這い
		18~20	10	~	
		22~28	10	~	
	4 m	18~22	10	-	
		24~28	10.5	9.5	
		6 m	16~18	-	
檜	3 m	14~16	28	25	檜概況 【3m】 柱 材 横這い 中目材 やや強含み 元 木 横這い 【4m】 柱 材 横這い 中目材 やや強含み 元 木 横這い
		18~20	25	25	
		22上	20	19	
	4 m	16~18	23	21	
		20~22	20	19	
		24~28	23	21	
	6 m	16	-	-	
		18~20	-	-	

●製 材 (12月)

価格：円/m³



樹種	寸 法	等級	区分	安値~高値	備考
スギ	正角 3m 10.5cm角	特等	K	~80,000	
	正角 3m 12cm角	特等	K	~75,000	
ヒノキ	正角 3m 10.5cm角	特等	K	~85,000	
	正角 3m 12cm角	特等	K	~80,000	
	正角 4m 10.5cm角	特等	K	~85,000	
	正角 4m 12cm角	特等	K	~80,000	
マツ	平角 4m 10.5~12cm×15~18cm	一等	K	~95,000	
米マツ	正角 3m, 4m 10.5cm角	特等	G	80,000~	
	平角 3m, 4m 10.5×15~21cm	特等	K	100,000~	
北洋アカマツ	タルキ 4m 3.8cm角	特等	K	100,000~	
ホワイトウッド	間柱 3m 2.7cm×10.5cm	特等	K	80,000~	

注1：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。
注2：区分のKとは人工乾燥材、Gとは未乾燥材のこと。

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値



「緑の募金」 ご協力をお願いします

緑の募金で進めようSDGs（持続可能な開発目標）

募金期間

春のみどりの月間

4月1日～5月31日

秋のみどりの月間

10月1日～10月31日

口座振込は
こちらへ

ゆうちょ銀行	00230-3-144752
※窓口では手数料がすべて免除となります	
中国銀行岡山駅前支店	普通1852041
トマト銀行岡山駅前支店	普通1027972

寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会

岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511



CT-500C

GP-532
小型ハイパワープロセッサ
IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.



PECKER PRO

shindaiwa®

E20385R/400TVP

高性能林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社

津山市一方 194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255

<https://mitsuyoshi.com/>

— 安全・人と自然・調和 —

美林を育てる

〔林地除草剤〕ザイトロンフレノック微粒剤・ザイトロン微粒剤・フレノック粒剤・ケイピンエース
造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕ランテクター水和剤・コニファー水和剤

〔幼齢樹保護カバー〕くわんたいⅡ

〔樹皮食い防止〕バークガード・美樹巻夫

〔樹幹注入剤〕マッケンジー・マツガード・他

〔野生草食獣侵入防止〕防獣ネット・他

お問い合わせ申込みは県森連・森林組合へ

販売：日植アグリ株式会社

販売元：大同商事(株)大阪営業所

TEL.086-292-5525

TEL.06-6384-1288



緑あふれる環境づくり



株式会社 **山 都 屋**

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号

TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142

<http://www.yamatoya-net.com>

大阪営業所 津山営業所 水島営業所

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

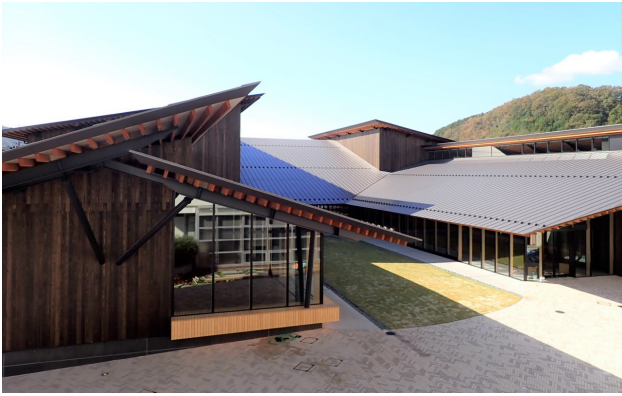
◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 総発売元 **森産業株式会社**

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104
TEL 岡山(086)805-7033(代)

林声

令和六年一月一日（第四九三号）
（隔月一日発行）



外観

森林・林業施設の紹介

「久米南町庁舎等複合施設」

今回は、令和4年度木づかい提案実証事業を活用して新設された、久米南町の庁舎等複合施設についてご紹介します。

久米南町の庁舎は、昭和47年に建設され、老朽化や狭あい化といった多くの問題を抱えていたため、同様の課題を抱えていた中央公民館（昭和49年建設）を撤去し、庁舎と集会所機能を含む複合施設を新設することになりました。



建物内の様子

延べ床面積約3,000平方メートルの鉄骨造一部木造2階建てで、木材を約160立法材（うち県産材約50立法材）使用しており、来館者の目の触れる所に、木材が多く使用されています。

この施設は、パブリックコメントで寄せられた「森林資源を使用した木造庁舎の提案」を取り入れた計画が進められました。その意見の中には、林野の荒廃を防ぎ、林業を含めた新しい仕事の確保に繋がればという期待が込められていました。

町内外から訪れる多くの人に、「やわらかさ・あたたかみ」といった木材の魅力を感じてもらえる施設となっています。

（津山普及指導区 松宮 悠夏）

編集 岡山県森林組合連合会内
発行 〒701-1202 岡山市北区櫛津四九一―一
岡山県林業改良普及協会



中古林業機械
売ります！買います！



HITACHI Logisnext

日立建設機械

油圧ショベル

三菱ロジスネクスト

フォークリフト



チェーンソー

各種林業アタッチメント

KEEPA NANSEI

IWAFUJI MOROOKA

各種機械のレンタル・修理も承ります！

富士岡山運搬機株式会社



本社 岡山県津山市津山口111-1

TEL : 0868-24-3211

新見 岡山県新見市石蟹267-9

TEL : 0867-76-9077

岡山 岡山県岡山市中区江崎84-1

TEL : 086-277-5100

鳥取 鳥取県鳥取市南栄町33-15

TEL : 0857-50-1985



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。